

〔和漢三才圖會時候〕七夕 凡年中所以嘉祝在正三五七九奇月而用朔三五七九奇日俗謂之五節

供七月七日亦其一也俗奪二星之事似忘其本也十一月十一日亦雖然九爲老陽故九月而止不用十一月十一日

〔瑤囊抄〕五節供ト云ハ何々并其由來如何五節供事異說多歟諸節供記來由區卒爾難注然共以

略可注夫作節供者養性要除災計也 正月一日節供表安樂相所以宿曜經云一日名建日又名吉

祥日宜作長久之事ト云々 三月三日節供爲除時氣病也所謂寒氣漸潛温氣始發當於斯時萌氣

病而以桃花浮美酒服病患不發於此氣懸門戶慎鬼魅不到於此 五月五日節供爲拂毒虫也夏毒

虫多上他國毒虫多交人家是故菖蒲艾草蓋屋上卷茅虵形名粽服之表殺毒虫ト云々 風俗記云

是日以五色糸繫臂攘惡鬼令人不病温一名長命縷二名臂兵縷大戴禮云是日採蘭以水煮之爲沐

浴令人辟除刀兵攘却惡鬼 證類本草云俗人取樗葉佩之云避惡 四民月令云是日糴子等多勿

食之食訖取菖蒲根七莖長一寸漬酒中服之 七月七日節供爲除瘡鬼也昔高辛氏小子是日死然

成一足鬼致人瘡病生日常嗜麥餅故此日以麥餅祭之年中離瘡用麥索此謂也十節記見ヘタリ

九月九日節供爲延遐壽也所以服菊云々 世風記云飲菊酒而以免災厄又云服菊華酒令人長壽

ト云々略下

〔日本歲時記九月〕五節供の中人日を除て上巳端午七夕重陽は中華にも賀する所の俗節なりそ

の月日みな奇にして陽數にあたるをとれりこれ古人陽を尙ふの意なりと草木子に見えたり

此說正しまことに古人の意を得たりと云ふべし然るに後人その義をえらす周王屈原織女桓

景等を以て職として此由とすその妄謬はなほだし

〔松の落葉四〕五節供 今の世五節供とて一とせのうち五度いはふ日あり西宮記に七月七日

内膳供御節供付采女采女付女房五七九日自恐とあり五七九日とは五七も日といふべきをはぶきてかれたるにて五月五日正月七日九月九日も七月七日に同じといふこと、きこゆ三